

乳がん高度検診・治療センター

NEW-す No.121

マンモトーム®専門外来がはじまっています!

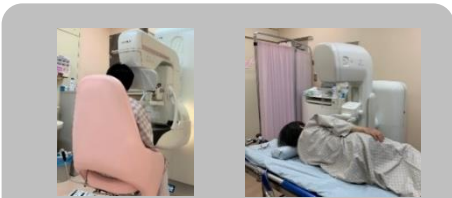
マンモトーム®検査とは?

マンモグラフィに描出された石灰化の良悪性の診断が難しい場合、マンモトーム®検査のない施設では、数年間の経過観察を行います。特に悪性疑い(C4)の場合は最終的に良性と診断されても、経過観察中は“悪性かもしれない”と不安を抱えて過ごすことになり、数年間の経過観察後に悪性と診断されると治療の開始が遅れます。一方で、マンモトーム®検査を行えば、約2週間後に正診率99%で良悪性の診断が可能です。(詳しくは乳がんセンターニュースNo. 60, 95を参照)

当院の「腹臥位トモシンセシスガイド下マンモトーム®装置」とは?

淡い石灰化でも鮮明に見える高精細検出器(フラットパネルディテクター)と正確で迅速に採取石灰化を設定できる乳房X線断層像を生成するトモシンセシス機能を用いて腹臥位でマンモトーム®検査を行う装置です。当院では2022年に導入しましたが、日本だけでなく海外においても最先端の装置であり、2024年6月現在で大阪では当院を含めて2台しか導入されていません。

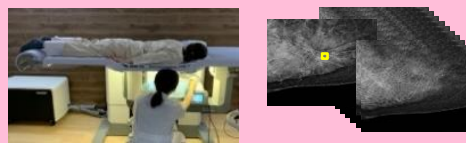
そして、この装置の最大のメリットは、腹臥位で検査が行えることです。座位や側臥位でのマンモトーム®検査は、患者さんの前で乳房に針を刺しますので、検査中の気分不良のリスクが高くなります。一方、腹臥位ではベッドの下の針刺入の様子は患者さんの目に入ることはありませんので、当院ではこれまで600件以上の腹臥位マンモトーム®検査を実施しており、気分不良は1件もありません。さらに腹臥位装置だけが360°方向から石灰化の採取が可能のため、できる限り血管を避けた針刺入で出血を最小限に抑え、乳房内の非常に広い範囲で石灰化の採取が可能です。したがって、患者さんの負担を最小限に抑えて、多くの症例に対して安心安全、正確で短時間にマンモトーム®検査の実施が可能です。



座位や側臥位のマンモトーム®
採取方向や範囲に制限があるため検査不可の場合もある。目の前で針刺入が行われるため、気分不良のリスクが高い。



当院の腹臥位トモシンセシスマンモトーム®



360°方向から血管を避けて針を刺すため出血が少なく、針刺入はベッドの下で行われるので、気分不良はほとんど起こらない。断層面で目標石灰化の位置を設定するため、正確で短時間に検査が行える。

マンモトーム®専門外来とは?

他院通院中の患者さんでも、当院の最先端装置を用いたマンモトーム®検査を受けて頂くことができます。マンモトーム®検査を実施して、病理診断結果をご依頼元の病院にご報告いたします。ご依頼元の病院は導入費用やランニングコスト無しで、最先端の安心安全正確で患者さんの負担の少ないマンモトーム®検査の実施が可能です。現在、当院ではマンモトーム®検査を毎週月曜日の午後12時に2件実施しています。患者さんが当院にご来院して頂くのは、検査当日の午後の半日だけです。お申込みやお問合せは当院の地域連携室 072 422 5865(内線 236)までご連絡ください。

当院のマンモトーム®専門外来の特徴

